1　本書は『東アジア生活絵引』の1巻である。

2　本書は、朝鮮時代の六つの風俗画作品を選定し、さらにそのなかから54枚の図を選択した。この検討は主として金貞我が行った。

六つの作品は以下の通りである。

①筆者未詳「耕織風俗図屏風」4曲1双（各47.0×105.0cm）絹本淡彩　漢陽大学校博物館蔵
②金弘道筆「檀園風俗画帖」25葉（各27.0×22.7cm）紙本淡彩　国立中央博物館蔵
③筆者未詳「平壌監司饗宴図」3幅（各71.2×196.6cm）紙本着色　国立中央博物館蔵
④申潤福筆「蕙園傳神帖」30葉（各35.6×28.2cm）紙本着色　澗松美術館蔵
⑤筆者未詳「平生図」8曲1隻（各 53.9×35.2cm）絹本着色　国立中央博物館蔵
⑥筆者未詳「四季風俗図屏風」8幅（各76.0×39.0cm） 絹本着色　国立中央博物館蔵

3　各図像について用いた底本は以下の通りである。

한양대학교박물관 編『한양대학교 박물관개관기념도록』2003
（『漢陽大学校博物館開館記念図録』）〈「耕織風俗図」〉
국립중앙박물관『조선시대풍속화』2002
（国立中央博物館『朝鮮時代風俗畫』韓国博物館会）〈「平壌監司饗宴図」〉
『단원풍속화첩』탐구당 1971（『檀園風俗画帖』探求堂）〈「檀園風俗画帖」〉
『혜원전신첩』탐구당 1974（『蕙園傳神帖』探求堂）〈「蕙園傳神帖」〉
국립국악연구회편『조선시대음악풍속도Ⅱ』민속원 2004
（国立国楽院編『朝鮮時代音楽風俗図Ⅱ』民俗院）〈「平生図」、「四季風俗図」〉

4　選択した図に描かれた事物・行為に番号を与え、それらを表現する語を日本語および韓国語（ハングル）で付け、また図全体を読み取り解説した。

5　作品単位に章を編成し、各絵には描かれた内容に基づいてテーマを設定した。各章の中は、その主題に基づきおおむね社会・経済・儀礼・信仰・芸能の順序に配列した。

6　一つの図とそれに対する語句キャプション・読み取り解説を見開き2ページに収録した。従って、対象の図の大きさによって、拡大もしくは縮小しており、原図の大きさとは一致しない。

7　各図に付ける番号は、以下の原則のいずれかによった。

a　その図像に与えたテーマに即して、テーマに近い事物から周辺的な事物へと付ける。
b　遠近法に従い、図像の中の近いところから遠いところへと付ける。
c　描かれた図像内容の時間にそって付ける。
d　左上から右下へ付ける。

8　番号に対する語の記載に際しては、まとまった全体についての語の場合は○を、また行為を示す場合には□を、それぞれ番号に付けた。

9　各事物・行為に付ける語は、以下の基準によった。

a　原則として事物単体にキャプションを付ける。
b　日本語の名称は現代日本語として一般に理解できる単語を優先させた。必要に応じて朝鮮時代の漢字表記、また現代韓国語をカタカナ表記で括弧内に示した。
c　韓国語による名称はハングル表記とした。
d　推測・推定・想像によるキャプションはできるだけ避け、推測・推定・解釈に及ぶことは解説で記述した。

10　本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者全員で検討し、完成させたものであるが、各図の読み取り解説については原稿を作成した者の個性が残されているので、各文末に括弧書きで担当者の名字を記載した。

11　事物・行為に対する語句キャプションについては、日本語、韓国語とも主として金貞我が作成し、研究参加者全員で検討し、完成させた。

12　本書編纂過程で獲得した知見は、各人が解題と考察編として記述した。

13　巻末には、キャプションとして付けた語彙についての索引を付した。日本語は五十音順、韓国語はハングルの語順によって配列した。

14　キャプションに付けた語彙のうち、日本人にとって理解困難な語については、索引に簡単な説明を付した。執筆は金貞我が担当した。